



## 環境報告書 2000

---

人と自然が共存できる、地球環境保護のために。

## ごあいさつ

21世紀は環境の世紀ともいわれ、これまでの大量消費型社会から循環型社会に転換することが求められています。それに伴いミレニアムの年2000年は、循環型社会元年と位置づけされています。

アンリツは、「オリジナル&ハイレベル」を理念に、高い技術力と信頼性のある商品を提供し、社会に貢献してまいりました。環境の分野でも1970年に環境保全の委員会を設置するとともに、先進的な汚染予防施設を導入するなど、早くから環境に調和した事業活動を展開してまいりました。その後も製品の開発時から生産、使用、廃棄のトータルライフサイクルを考慮した環境配慮型製品の提供と環境管理活動の改善に努め、1998年には生産拠点である厚木地区でISO14001の認証を取得し、またグループ企業である東北アンリツも1999年に取得いたしました。

21世紀に向けアンリツは事業活動の全ての分野で、循環型社会の構築に役立つ、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減などの幅広い活動を実施し、地球企業としてグローバルな展開をしてまいります。

本報告書は、アンリツが推進しております環境管理活動の1999年度実績を掲載しております。

アンリツの環境管理に対する考え方と活動をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

### Contents

ごあいさつ	1
会社概要	2
環境管理活動の歴史	3
環境マネジメントシステム	4
1999年度の環境目標と結果	6
アンリツ環境管理長期計画	
環境保全	7
省エネルギー活動	9
廃棄物の削減活動	
化学物質管理	10
製品	11
教育・啓発	13
環境投資・費用	14
地域貢献活動 表彰	
アンリツグループの環境管理活動	

2000年9月  
代表取締役社長

塩見 昭



## 経営理念(HOP)

Human Organization  
誠と和と意欲に満ち  
人間性あふれる集団であろう

Original & High - Level  
オリジナル&ハイレベルを追求しよう

Personal  
個性を生かし、個性を発揮しよう

## プロフィール

商号 アンリツ株式会社  
本社 東京都港区南麻布五丁目10番27号  
創業 1895年(明治28年)石杉社創業  
創立 1931年(昭和6年)安立電気株式会社創立  
代表者 代表取締役会長 中川 裕雄  
代表取締役社長 塩見 昭  
資本金 133億4,185万円  
売上高 865億5,300万円(1999年度)  
主要事業 情報通信 計測器 デバイス 産業機械  
従業員数 2,657名(2000年3月末現在)

## アンリツ関連会社

東北アンリツ株式会社  
尾道アンリツ株式会社  
他



本社



厚木事業所



東北アンリツ



尾道アンリツ

# アンリツの環境管理活動の歴史

アンリツ	外部の動き
1962 厚木事業所に化工工場開設にともない排水処理施設設置	1967 「公害対策基本法」制定
1970 ZP(Zero Pollution)委員会発足	1971 環境庁設置
1972 厚木事業所排水処理施設を拡充	1972 ローマクラブが「成長の限界」を発表
1974 厨房排水処理施設として活性汚泥処理方式施設導入	
1978 雨水以外の排水を公共下水道に接続	
1979 神奈川県環境保全協議会から環境保全優良工場として表彰される	
1980 神奈川県緑化モデル工場として表彰される	
1981 神奈川県県央地区行政センターから環境保全功労表彰を受ける	
1987 厚木事業所で工程系配管の架空配管整備	1987 「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」採択
1989 特定物質等削減対策委員会発足	
1990 化学物質の購入・給配の一元化開始	
廃棄物の16分別回収の開始	
厚木事業所総務部に環境管理課設置	
1991 (財)日本緑化センター会長賞受賞	1991 「再生資源の利用の促進に関する法律」(リサイクル法)制定
1992 環境保全設計調査WG発足	1992 「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)開催
オゾン層破壊物質全廃対応設計の実施	
1993 オゾン層破壊物質全廃(除く冷媒、消火器)	
環境管理委員会(現環境システム委員会)発足	
環境管理部設置	
二カド電池規制対応	
環境理念及び環境管理システム規程の制定	
臭素系難燃剤の調査と対応	
エネルギー対策専門委員会発足	
1994 厚木ZP委員会を厚木環境管理委員会に改組	
製品アセスメント委員会発足	
1995 NEC関係会社環境対策協議会による相互審査受審	1995 「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」(容器包装リサイクル法)制定
厚木地区廃棄物対策協議会長賞受賞	「気候変動枠組条約第1回締約国会議」(COP1)開催(ベルリン)
1996 グリーン購入ネットワークに加入	1996 環境マネジメントシステム、国際標準規格「ISO14001」発行
アンリツ環境マニュアル制定	
厚木事業所で大防法対象特定施設(灯油ボイラー)廃止	
1997 ISO14001認証取得に向けキックオフ	1997 「気候変動枠組条約第3回締約国会議」(COP3)開催(京都)
アンリツ環境方針制定	
厚木地区環境方針制定	
1998 古紙100%PPC用紙採用	1998 「特定家庭用機器再商品化法」(家電リサイクル法)制定
厚木事業所でISO14001認証取得	
関東通商産業局長殿から緑化優良工場として表彰	
技術本部に環境技術グループ設置	
鉛フリーはんだ委員会発足	

# 環境マネジメントシステム

## 基本的な考え方

アンリツは、1995年7月に経営理念を発表し、その中で「誠と和と意欲に満ち、人間性あふれる集団であろう」と人間尊重が原点であることを第一に掲げています。その理念に基づき、1997年9月「アンリツ環境方針」を制定し、「環境に配慮し、人と自然が共存できる豊かな社会づくりを推進すること」を誓約しています。

また、1997年12月に制定した「アンリツ行動規範」においても関係法令の遵守と内外の環境保護・保全に努めることを定め、社員の一人ひとりが環境にやさしい行動をとることでかけがえのない地球を次世代に残す活動に取り組んでいます。

## 環境方針

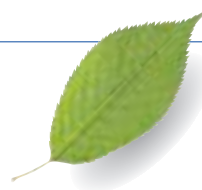
### 環境理念

アンリツ株式会社は、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

### 行動指針

豊かな社会づくりに向け、企業活動の全域で、一人ひとりが環境へのやさしさを優先して行動します。

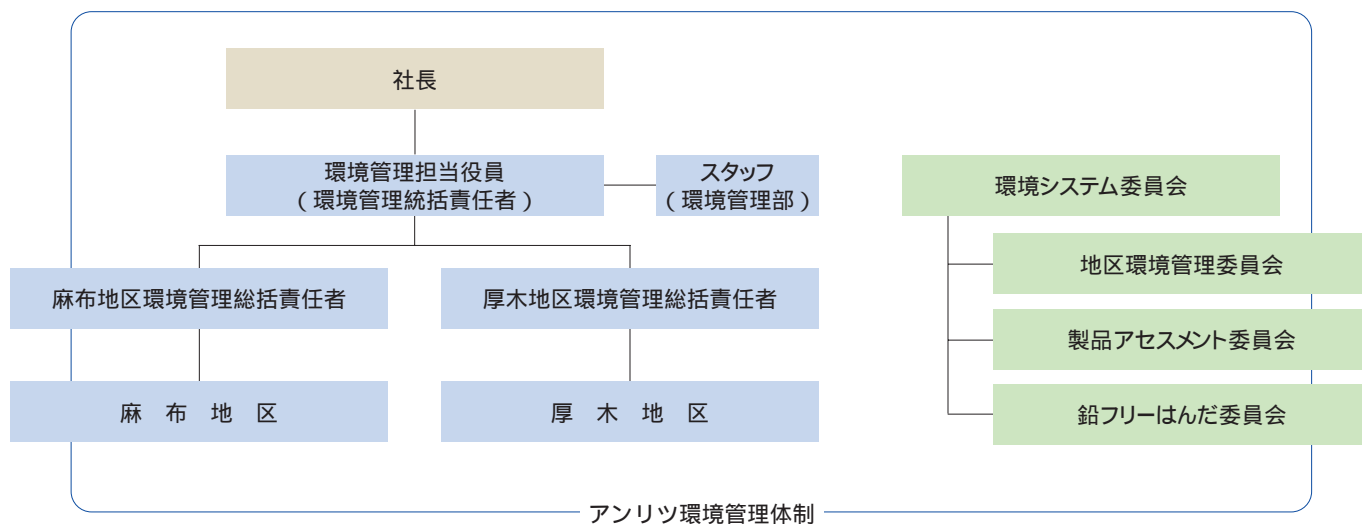
- (1) 開発設計から廃棄までのすべての事業活動領域で、環境へ与える影響を配慮した環境管理活動を実践する。
- (2) 環境管理活動を実践するための組織・運営体制を整え、環境目的・目標を設定し、活動を展開する。さらに内部環境監査を実施して継続的に改善する環境マネジメントシステムを確立し維持する。
- (3) 環境にかかわる法規制等を遵守するとともに、自主管理基準を設定し、継続的な環境パフォーマンスの向上に努める。
- (4) 汚染予防の視点から省エネルギー、省資源と廃棄物の削減を推進するとともに、異常時や緊急時に排水や化学物質の漏洩等がないよう設備の予防処置を行なう。
- (5) この環境方針を周知するため、社内に掲示及び文書で伝達するとともに、環境の教育・訓練を実施してその理解と意識向上を図る。
- (6) この環境方針の開示を利害関係者から要求された場合は、開示する。



## 環境管理体制

1970年環境保全活動を推進するために、厚木事業所にZP (Zero Pollution)委員会、1993年には全社の環境管理を推進するための環境管理委員会(現環境システム委員会) 同年に環境管理部を設置し、環境管理活動を推進してきました。

環境管理の組織として、環境管理担当役員(環境管理統括責任者)を始め、そのスタッフとして環境管理部、環境技術を担当する技術本部環境技術グループを設置し、また地区に活動単位である管理体を編成し、それぞれが連携を持って活動しています。



## 環境管理のPDCA

アンリツは、PDCA(Plan - Do - Check - Action)サイクルを回すことによって環境負荷を削減し、継続的に改善していく環境マネジメントシステムの導入を積極的に進めてまいりました。

環境方針は、環境管理長期計画と年間環境管理計画として具体化され、環境システム委員会及び地区環境管理委員会の承認により、各部門、従業員に展開され実施されます。

環境マネジメントシステムは、自主的に内部環境監査でチェックを行うことを要求しており、定期的な内部環境監査を実施しています。さらに、NEC関係会社環境対策協議会の相互環境審査に参加するとともに、環境の国際規格であるISO14001の認証を取得し、第三者機関による審査を受けています。

### アンリツグループのISO14001認証取得状況

アンリツ(株)厚木地区	1998年8月	JQA-EM0210
東北アンリツ(株)	1999年10月	JQA-EM0560



# 1999年度の環境目標と結果

1999年度は、省資源、省エネルギーなどの8項目の環境目標を設定し活動した結果、全項目について目標を達成することができました。

## 〔1999年度の環境目標の結果〕

項目	1999年度 目標	1999年度 実績	評価
廃棄物の削減 ・産業廃棄物の委託処分量を2003年度までに1990年度比73%削減する	63%	67%	
省資源・省エネルギー ・電気エネルギーの使用量を2003年度までに原単位で1990年度比21%削減する ・省資源10%以上の機種を10機種以上/年度 開発する (対象項目:体積・質量・分解時間・消費電力) ・コピー用紙の使用量を2003年度までに1998年度比15%削減する	18% 10機種 (2項目以上) 5%	21% 16機種 (2項目以上) 13%	
汚染防止 ・無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持	0件	0件	
化学物質のリスク回避 ・化学物質リスク対策の実施 ・シアン化合物の使用量を2003年度までに1990年度比73%削減する	3件 70%	8件 70%	
グリーン化 ・事務用品のグリーン調達品目を2003年度までに80品目に拡大する	20品目	29品目	

:達成    ×:未達成

# アンリツ環境管理長期計画

アンリツは、環境管理長期計画を策定し、継続的改善を進めています。2000年度は、新たに鉛はんだ使用量の削減やごみゼロを目指した計画を掲げ、循環型経済社会構築に貢献してまいります。また、現状の活動を分析し、種々のデータベースを蓄積して、より活発な、より高度な活動を展開していきます。

## 〔アンリツ環境管理長期計画〕

環境管理長期計画	2000年度目標
廃棄物の削減・リサイクル ・産業廃棄物の焼却・埋立量を2003年度までに1990年度比77%削減する ・産業廃棄物のリサイクル率を2003年度までに40%にする ・ごみゼロ化を2010年までに達成する	70% 32% -
省資源・省エネルギー ・電気エネルギーの使用量を2003年度までに原単位で1990年度比18%削減する ・省資源10%以上の機種を10機種以上/年度 開発する (対象項目:体積・質量・分解時間・消費電力) ・コピー用紙の使用量を2003年度までに1998年度比15%削減する	17% 10機種 (4項目平均) 8%
汚染防止 ・無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持	0件
化学物質のリスク回避 ・化学物質リスク対策の実施 ・生産用自社版MSDSの整備率を2003年度100%にする ・シアン化合物の使用量を2003年度までに1990年度比73%削減する ・鉛はんだ使用量を2001年度末までに1997年度比50%削減する	3件 20% 70% -
グリーン化 ・事務用品のグリーン調達品目を2003年度までに80品目に拡大する	40品目

:新規計画

# 環境保全

アンリツでは、水・大気の保全、騒音防止などのために、法、条例より厳しい自主管理基準を定め、定期的にこれらの分析測定管理をして、事業所外への負荷を最小限に抑える努力をしています。1999年度は、全ての項目についてこれらの基準を超えるものではありませんでした。

## 水の保全

アンリツは、一般の生活系排水及び生産工程からの排水を公共下水道に排出しています。厚木事業所では、年間約22万m<sup>3</sup>の水を使用しており、めっき工程があるため、これら生産工程からの排水は、排水処理施設で中和、分解など無害化した後、公共下水道へ排出しています。下水の排出基準には、人の健康に係る項目(健康項目)と、生活環境に係る項目(生活環境項目)とがあり、法律及び条例で基準が定められています。アンリツでは、これらの基準より厳しい自主管理基準を定め、年間5,000件に及ぶ分析測定を行い、水質の保全に努めるとともに、生産施設などに循環水を使用し、水の有効利用を推進しています。

## 大気の保全

厚木事業所では、1976年にごみ焼却炉を廃止し、1996年には灯油燃料のボイラーを環境負荷の小さな都市ガス燃料の小型ボイラーに切り替えました。現在、大気汚染防止法や条例で定められた施設等を設置していませんが、大気を汚す可能性のある施設または物質について、定期的に自主測定を行っています。

## 騒音防止

近隣への影響を防止するため、設備設置前に社内で事前審査を行い、防音室や防音壁を設置するなどして、騒音防止に努めています。

排水測定実績(厚木事業所の例)

単位: mg/l

	項目または物質	排出基準		実測値(最大値)
		法・条例基準	自主管理基準	1999年度
健康項目	シアン化合物	1	0.6	0.44
	鉛及びその化合物	0.1	0.06	0.009
	六価クロム化合物	0.5	0.3	-
生活環境項目	温度	40	35	28.8
	水素イオン濃度指数pH	>5.7、<8.7	6.0~8.4	6.8~8.2
	生物化学的酸素要求量	300	180	12.8
	浮遊物質 SS	300	180	5.2
	n-ヘキサン抽出物質	5	3	1.4
	沃素消費量	220	130	3.8
	フェノール類	0.5	0.3	0.2
	銅及びその化合物	3	1.8	0.50
	亜鉛及びその化合物	3	1.8	0.12
	鉄及びその化合物	10	6	0.21
	マンガン及びその化合物(溶解性)	1	0.6	0.03
	クロム及びその化合物(溶解性)	2	1.2	0.08
	ふっ素化合物	15	9	0.37
ニッケル含有物	1	0.6	0.44	

注 六価クロム化合物は、クロム分析値が自主管理基準値を超えた場合のみ分析

大気測定実績(厚木事業所の例)

単位: ppm

項目	排出基準		実測値(最大値)
	条例基準	自主管理基準	1999年度
塩化水素	5	3	不検出
シアン化合物	10	6	0.3
トルエン	100	60	6.7
キシレン	150	90	4.4
ホルムアルデヒド	5	3	1.3

騒音測定結果(厚木事業所の例)

単位: dB

測定箇所	規制基準		実測値
	条例基準	自主管理基準	1999年度
事業所東側敷地境界線	70	68	56
事業所西側 "			57
事業所南側 "			59
事業所北側 " (メイン道路側)			67



## オゾン層破壊物質の全廃

アンリツが生産している製品に、フロン、ハロンや他の塩素系有機溶剤などオゾン層破壊物質を含有する製品はありません。一方、生産工程でのオゾン層破壊物質は、1993年度末に全廃しました。

また、空調用に設置している冷凍機のフロン、消火器・消火施設のハロンなどのオゾン層破壊物質も全廃に向けて活動してまいります。

## 地下水の汚染調査

アンリツではトリクロロエチレンを1970年度に、1,1,1-トリクロロエタンを1993年度に全廃しましたが、有機塩素系化合物については、地下水の分析を継続的に実施しています。1999年度も分析を実施し、トリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレンについて、環境基準以下であることを確認しています。



## 工場緑化

厚木事業所では、“地域と調和した緑ゆたかな事業所づくり”をめざし、事業所全域に緑の多い高、中木や四季折々に楽しめる花木を配し、地域の環境に調和するよう努めています。事業所の緑地面積率は30%を擁し、これを維持するため常に美化を心がけ、整備しています。

1998年には、工場緑化を推進し、地域の環境の向上に大きく貢献した努力が認められ、関東通商産業局長賞を受賞しました。



# 省エネルギー - 活動

アンリツでは地球温暖化防止対策の一つとして、各種エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。インバータ制御機器、温水・氷蓄熱施設、省電力施設の導入をはじめとして種々の施策を講じています。

## エネルギー - 使用状況

アンリツのエネルギー使用状況は、年間電力が 2,690万kWh、ガス燃料(都市ガス)が16万m<sup>3</sup>、石油燃料(重油、軽油)が28klで、これらをCO<sub>2</sub>排出量炭素換算すると電力が全体の96%と大部分を占めます。このような点から地球温暖化防止対策として、電力エネルギーの削減に取り組んでいます。

## 省エネルギー - 実績

アンリツの電力エネルギー量の92%は、厚木事業所で消費しています。厚木事業所において、1999年度の単位建物床面積当りの電力使用量は、273kWh/m<sup>2</sup>(CO<sub>2</sub>排出量炭素換算で31kg/m<sup>2</sup>)で、1990年度比21%削減しました。

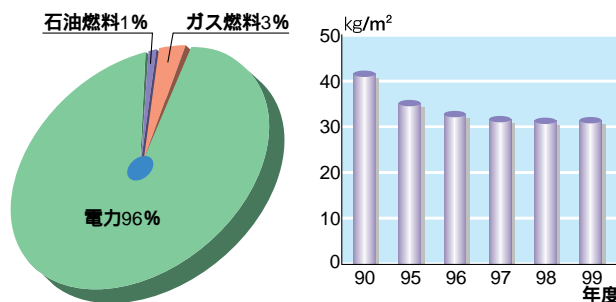
### 1999年度の

### 主な省エネルギー - 活動と施策

厚木事業所では、食堂、会議室、電波吸収室、一般事務

室などを含んだ建屋を新設し、1999年5月から一部使用を開始しました。この建物にはインバータ制御方式照明や温水蓄熱・氷蓄熱システムの採用など種々の省エネルギー対策を施しています。また、既存の建屋では低損失型変圧器への更新(3台 13,750kWh/年の節電)、排気ファン運転の適正化(8台 24,620kWh/年の節電)などを実施したほか、空調管理基準策定による空調温度管理などを進めています。

日常的には、休み時間など不要照明の消灯実施をはじめ、社員への啓発活動(社内ニュース紙、電光掲示板でのPR、省エネ巡視)などを通して無駄のない省エネルギー活動を展開しました。



エネルギー使用状況(CO<sub>2</sub>排出量炭素換算比) 省エネルギー実績(厚木事業所)

# 廃棄物の削減活動

工場の生産活動に伴って種々の廃棄物が発生し、廃棄物による公害、埋立処分場のひっ迫など様々な社会問題を生じています。1999年度までは産業廃棄物委託処分量の削減を重点に取り組みました。今後はリサイクル化に積極的に取り組み、産業廃棄物の減量化を推進します。

## 産業廃棄物の発生状況

アンリツで発生する産業廃棄物の93%を占める厚木事業所では、汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリ、廃油、金属くずなどがあり、廃棄物の性状に応じてリサイクルに回され、その他は適切な処分が行われます。

## 削減目標と実績

### ・1999年度目標

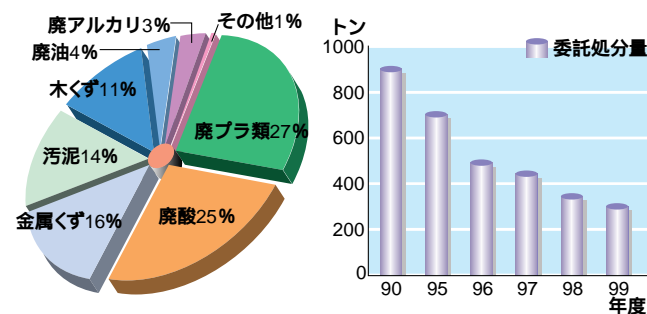
産業廃棄物の委託処分量を1990年度比63%削減する。

### ・実績

1999年度の実績は、前年度比10%、1990年度比で67%削減しました。

## 1999年度の主な廃棄物削減活動と施策

厚木事業所では、1999年5月に厨房排水処理施設を更新・改善し、汚泥の発生を前年度より26トン削減しました(70%減)。また、分別の徹底を図り、廃プラスチック量を前年度より56トン削減しました(34%減)。実施にあたっては社員への環境教育をはじめ、分別が分かりやすいよう廃棄物置場に写真入り分別表を掲示するなど啓発活動を推進しました。これらのほか、廃プラスチックの高炉還元剤化とガス化、廃油、廃溶剤の燃料化などのリサイクル化を進めています。



産業廃棄物の発生状況(重量比)

産業廃棄物の削減実績

# 化学物質管理

化学物質管理は、環境管理活動の重要項目として、化学物質の使用・廃棄量の削減、リスク対策の実施、有害化学物質の代替化などに取り組んでいます。

## 化学物質管理システム

新規導入計画のある全ての化学物質に対して、導入の可否を決定する事前評価を実施しています。また、化学物質の購入窓口を一元化し、許可登録がされているかを確認後、外部業者に発注するようにしています。環境管理部門が、オンライン管理システムにより、化学物質使用部門毎の使用量、購入量、廃棄量などを把握し、管理しています。

## 化学物質の使用量削減

化学物質の1999年度全使用量は、1995年度に比較して半減しています。また、有害性の高い物質のひとつであるシアン化合物の使用量削減を目標に取り上げ、1999年度は1990年度と比較して約70%削減できました。

## PRTR

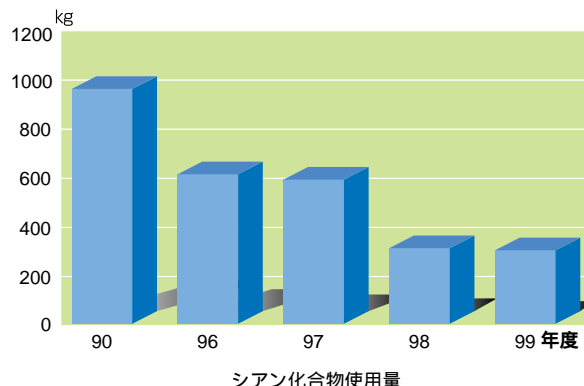
アンリツは、PRTR法\*に指定された化学物質を29種類使用していますが、1999年度で使用量が1トン以上の化学物質は、トルエンとキシレンの2種類あります。これらの物質は、工程の見直しにより2000年度に1トンを下回る見込みです。

## リスク対策

有害性の高い化学物質などが漏洩しないように、化学物質貯留槽の2重構造化や漏洩センサの設置などを行い、汚染の予防に努めています。また、万が一漏洩した場合を想定し、対応手順を作成して、定期的に設備確認と訓練を実施しています。

## 有害化学物質の代替化

アンリツでは、塗装前処理や塗料のクロムフリー化など、有害化学物質を環境影響の小さい化学物質へ代替を検討しています。



PRTR調査結果

単位:トン

物質名	取扱量	排出移動量			除去処理量	リサイクル量
		大気	水域	廃棄物		
トルエン	2.33	0.58	0.00	0.49	1.26	0.00
キシレン	1.59	0.31	0.00	0.18	1.10	0.00

\*PRTR法: 正式名称は、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。指定された化学物質の取扱量が年間1トンを超えると、事業者は化学物質の環境への排出量・移動量を把握し、都道府県経由で国に届出(義務化)

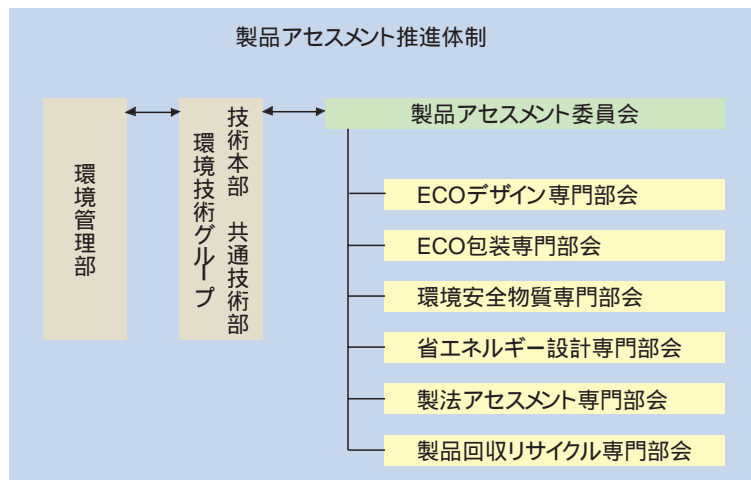


化学物質漏洩対応テスト



# 製品

1994年に製品アセスメント委員会を発足し、環境配慮型製品の開発に取り組み始めました。その後、各専門部会を発足し、製品に関わる総合的な環境配慮設計を推進してきました。1998年10月には、技術本部 共通技術部の中に「環境技術グループ」を新設し、環境技術情報の収集と社内公開など、さらなる推進を図っています。また、製品の環境配慮性をアピールするため、アンリツが定める環境配慮基準を満たした製品に付与する「アンリツエコ製品マーク」の検討を開始しました。



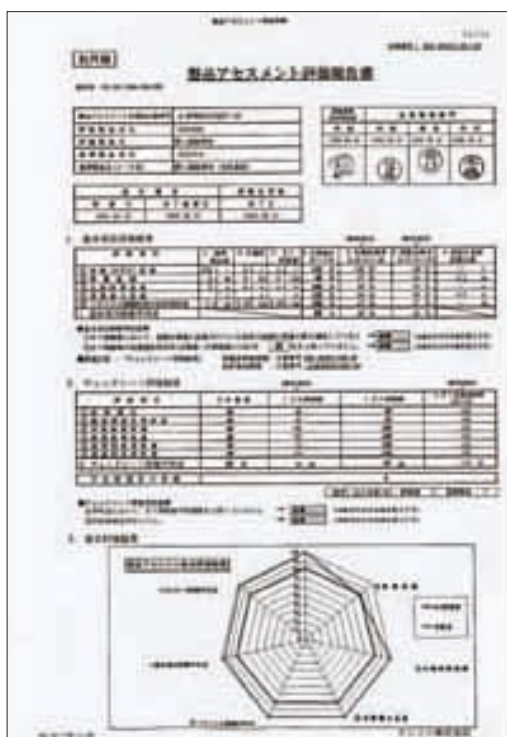
## 製品アセスメントの実施

環境に配慮した製品を造るため、1994年に「製品アセスメント実施規程」を制定し、全ての開発プロジェクトで実施しています。この規程は、製品の開発設計段階において、資材調達から製造・流通・使用・廃棄段階までの全過程を通して、省資源化・省エネルギー化・長寿命化・解体分離の容易化・再利用・再資源化を検討し、設計審査および新製品評価段階で評価します。

## ネットワーク データ アナライザの実施例

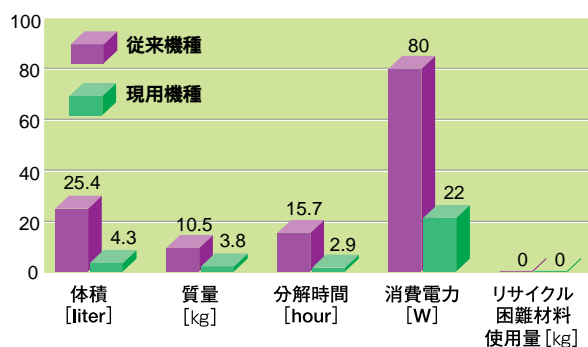
ネットワーク データ アナライザは、高速デジタル専用線、ISDN回線用誤り率測定器です。大規模FPGA( Field Programmable Gate Array )による回路の集積化やアナログ回路のデジタル化などで大幅な小型・軽量を実現しました。

また、省エネルギー部品の採用や回路の低電圧化により消費電力を低減し、バッテリーでの長時間動作を可能にしました。さらに、ネジや機構部品などを削減し、分解時間も大幅に短縮しました。



評価報告書

従来機種との比較



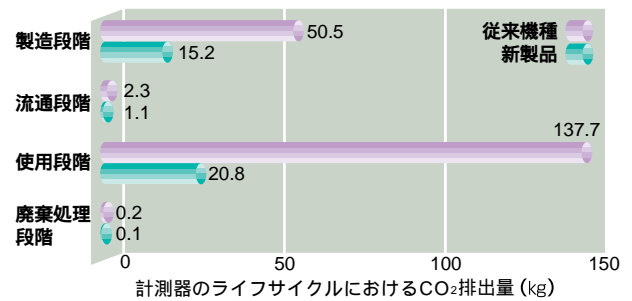
ネットワーク データ アナライザ

## ライフサイクルアセスメント(LCA)の試行

製品の資源採取から廃棄に至る環境負荷の定量評価ができるLCAを試行しました。この結果から、製品の消費電力低減や製品製造段階の改善など取り組むべき課題が明確になりました。今後、各段階でのデータを積み上げて、全社普及を目指します。従来の製品アセスメント手法とLCA手法の長所を生かし、環境配慮型製品の開発を推進します。

## 省エネルギー設計の推進

CO<sub>2</sub>排出量で見たLCAの結果から明らかなように、製品の消費電力の低減が重要であると認識し、早急に取り組むべき課題としました。昨年度は、業界のトップランナーを目指した製品の省エネルギー目標を掲げ、主要新製品ご



とに消費電力低減計画を立てました。省エネルギー技術の開発や低消費電力部品の採用など、ソフトウェアとハードウェアの両面から省エネルギー設計を推進していきます。

## グリーン調達への推進

環境配慮型製品を造るためには、製品に使用する資材(部品や材料など)の調達段階から環境への影響の把握が必要です。このため、1999年6月に「アンリツグリーン調達ガイドライン - 製品開発用」を制定し、サプライヤに情報提供や調達資材へのグリーン化などを、お願いしております。

### (1)本 編

- ・環境マネジメントシステムの構築とその推進
- ・製品アセスメントの実施

### (2)省エネルギー編

- ・省エネルギー部品
- ・エネルギー消費効率の向上手法の提案

### (3)材料(有害物質の抑制)編

物質の選定にあたっては、関係法律や国際議定書に明示された物質を基本としました。

- ・含有を禁止する物質6種
- ・含有を抑制する物質6種
- ・含有を管理する物質25種

- ・製造工程での使用を禁止する物質5種
  - ・製造工程での使用を抑制する物質8種
- グリーン調達では、社外からの情報提供が不可欠です。そのために、サプライヤへの説明会やアンケートなどを実施し、有害物質や省エネルギー部品に関する情報を収集しデータベース化しています。



## 鉛フリーはんだへの取り組み

電子部品をプリント板に接続するために鉛を含んだはんだを使用しています。製品が廃棄されたとき、酸性雨などの影響で鉛が溶出し、土壤汚染を引き起こすことが問題視されています。アンリツでは、1998年12月に鉛フリーはんだ委員会を発足し、継続して検討しています。1999年5月からは材料技術、部品調達、プリント板実装技術およびデバイス製造技術に関する各ワーキンググループを設けて、

- ・鉛フリーはんだ材料やフラックスの物性および信頼性評価
- ・製品用プリント板をサンプルとした実装試験
- ・電子部品の耐熱性能や端子めっき種類などの情報収集などを実施しました。今後、鉛フリーはんだによるプリント板実装プロセスの確立を目指すと共に、鉛を使用しないデバイスの開発に取り組めます。

# 教育・啓発

全社員が参加できる教育、セミナー、展示会などの教育・啓発を行っています。

## 環境教育

社員一人ひとりが環境意識を高め、積極的に取り組めるように、従業員を始め、請負業者までを含めた環境教育を実施しています。

教育プログラム名	開催時期 / 頻度
新入社員教育	4月 / 年1回
実務社員教育	1月 / 年1回
管理職社員教育	6月 / 年1回
部門内教育	随時
構内請負業者教育	5月 / 年1回
内部環境監査員教育	4、12月 / 年2回

## 社内展示会

年1回開催される社内展示会の中に1993年から環境コーナーを設け、アンリツグループ内に公開しています。環境コーナーでは、さまざまな取組みを紹介し、啓発を図っています。



## 環境技術セミナー

技術開発部門に対し、1999年度は、製品の省エネルギー技術の最新情報の特集を組み、技術講演、技術教育講座などセミナーを開催しました。



## 社内広報

環境ホームページによる環境情報の公開のほか、1990年から総合安全ニュースの中に環境のページを設けて掲載し年4回発行しています。



## 環境投資・費用

これまで省エネルギーと資源の有効利用を考慮し、温水蓄熱・氷蓄熱システム、インバータ制御方式の設備の導入やリスク対策などへの投資を積極的に行ってきました。



氷蓄熱システム

1999年度環境投資 単位：百万円

項目	金額
水質汚濁防止関係	79
産業廃棄物処理	69
化学物質対策	12
分析測定	1
緑化整備	7
省エネルギー対策	54
清掃	44
教育・環境会議	64
環境管理部門経費	182
合計	512

## 地域貢献活動

清掃ボランティア活動などの行事に参加し、地域との共生を図っています。相模川クリーンキャンペーンやクリーン厚木美化キャンペーンなどに参加し、ごみ拾いや清掃を行いました。



## 表彰

アンリツでは、これまで環境に関する活動が認められ、表彰されました。

受賞名	主催	受賞年
環境保全優良工場	神奈川県環境保全協議会	1979年
神奈川県緑化モデル工場	神奈川県	1980年
環境保全功労表彰	神奈川県県央地区行政センター	1981年
(財)日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター	1991年
厚木地区廃棄物対策協議会会長賞	厚木地区廃棄物対策協議会	1995年
緑化優良工場関東通商産業局長賞	関東通商産業局	1998年

## アンリツグループの環境管理活動

アンリツグループでは、環境理念に基づき、環境マネジメントシステムを構築し、向上させることで人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。



東北アンリツ



尾道アンリツ

# アンリツ株式会社

この報告書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。



000907

## アンリツ株式会社

本社 〒106-8570東京都港区南麻布5-10-27 <http://www.anritsu.co.jp/>  
お問い合わせ先：環境管理部 TEL 046-296-6503 FAX 046-225-8301



この報告書は環境にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。 2000年9月発行